

平成29年度シラバス

学番40 新潟県立栃尾高等学校

教科名	情報	科目名	社会と情報	単位数	2
科目の性質	必修	学年(学級)	1学年		
使用教科書	「最新社会と情報」(実教出版)	副教材等	インターネット社会を生きるための情報倫理		

1 学習目標

現代社会は日進月歩を続ける情報機器を基盤とし、必然的に日々変化して行かざるを得ません。単に情報機器を使うことができるというだけでなく、それらが社会の中でどのような役割を果たし、あるいは影響を与えているのか理解させる。情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して、情報を収集、処理、表現させる。また、効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

2 指導の重点

パーソナルコンピュータを、情報を受け取るだけのツールとして見ないように。情報を発信するツールであることに重点を置く。与えられたソフトウェアしか操作できないような知識では意味がない。

3 指導計画

学 習 内 容	学習のねらい	予定時数
1章 情報社会とわたしたち	・情報や知識についての意味を理解する。	6
2章 情報機器とデジタル表現	・情報とメディアの関係、メディアの分類を理解する。	12
3章 表現と伝達		12
4章 コミュニケーションとネットワーク	・情報伝達する際の留意点について学ぶ。 ・コンピュータウイルスの種類や被害の状況、及びその対策について理解する。	14
5章 法規とセキュリティ		14
6章 情報社会と問題解決	等	12
学習の方法 1. 講義形式授業 プレゼンテーションソフトやビデオソフトなどを効果的に使用する。 2. パソコン実習 Microsoft Excel、Word、Microsoft PowerPoint のソフトウェアの習熟 他ブラウザ等を利用しながら統合的に進めていく		

4 課題・提出物等

課題の作成にはできるだけパソコンを使用する。
個人のUSBメモリに作業成果の保存を行う。

5 評価規準と評価方法

評価は以下の観点から行う。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業の様子（授業態度・発問評価・学習活動への取り組みなど）
- ・定期考査
- ・提出物の状況（授業課題・休業中の課題など）などから総合的に判断する。

6 担当者からの一言

パソコンが「一家に一台」から、「一人に一台」という社会になりつつありますが、パソコンをメディアの受信装置としてだけの利用にとどまらず、個人が自ら情報を発信する立場にあり情報の扱いを誤ることでトラブルになることもあります。情報の扱いについても学んでいきます。